



曲がりくねって、ただいま。
大阪府 豊能町
OSAKA TOYONAKA TOWN

報道資料

令和7年6月12日

6年生 特定外来生物オオキンケイギクを駆除し、地域の環境保全活動に寄与

6月12日（木）、豊能町立東能勢小学校（校長：高橋弘樹）の6年生（16人）が、特定外来生物オオキンケイギクが生態系に影響をおよぼすおそれがあることを学び、「とよの未来科（※）」の一環としてオオキンケイギクを駆除し、豊能町の環境保全に寄与しました。

子どもたちからの提案で、特定外来生物オオキンケイギクの話について学びたいとの声があがったことから、6月3日（火）、環境省近畿地方環境事務所の外来生物防除専門官の末廣亘さんにお越しいただき、特定外来生物についてのお話を聞きました。

その中で、既に広く定着してしまった外来種の防除については、国や自治体、地域の方などが協力して取り組むことが不可欠であるとの話を聞いた6年生が、ぜひとも自分たちにもできることはないかと考え、6月12日（木）に豊能町の環境保全のため、植物に関する小規模防除の特例（外来生物法施行規則第2条第14号）に基づき特定外来生物のオオキンケイギクを防除する活動を行いました。活動をした児童は「たくさんのオオキンケイギクがとれたので、役に立てたなら嬉しい」と話しました。児童らはビニール袋約10袋のオオキンケイギクをとりました。

オオキンケイギクは、キク科の植物の一種で、北アメリカ原産で高さ30～70cm、黄色い花を咲かせる宿根草で、繁殖力が強いいため、日本の生態系に重大な影響をおよぼすおそれがある植物として、平成18年2月に特定外来生物に指定されました。

※「とよの未来科」とは、探究的な見方・考え方を働かせ、具体的な活動や体験、横断的・総合的な学習を行うことを通して、生活の場である身近な地域「とよの」への理解を深め、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えるための資質・能力の育成をめざす学習のことです。「とよの」の教育資源を活用しながら学習し、様々な人々と触れ合う機会や体験を重視した活動を通して、「とよの」と自分に対する自信と誇りの育成をめざしています。



オオキンケイギク



駆除の活動の様子

この件に関するお問い合わせは

◇大阪府豊能町立東能勢小学校 担当：高橋（Tel072-739-0016 直通）

写真について（ギガファイル便）

<https://94.gigafile.nu/0617-d76574495560851187a8000e3230be8c6>

PASS:giga